

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば1階ユニット		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=truet&jiyosyoCd=2290400080-00&PrefCd=22&VersioCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスとの連携を通じて、お客様、職員の行き来が頻繁あり、特に体操、機能訓練の取り組みはお客様の生活の質を高める事ができている。美容師資格を持った介護職員がビューティセラピー資格を取得しタッチケアを通じた認知症ケアが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と海に囲まれた場所に事業所はあります。家族希望でパワーリハビリの機器を使った個別訓練が続く利用者もいる程で、本人本位と家族満足に力を注いできましたが、近年のトピックスとしてはタッチケアの充実が一番に挙げられます。2018年ビックサイトで催された『住まい×介護×医療展』における『介護新ビジネス展』でも大々的に紹介されたビューティセラピー資格を美容師資格を持った介護職員が取得し、タッチケアを通じた認知症ケアがおこなわれています。「(あなたも)やってもらったら」「また来てね」「はい、〇ページを開けてください」と、利用者の発言にはどれも弾みがあって、いつまでも見つめていたい光景が広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて季節ごとの行事や、地域祭りを通じて交流し、地域に根ざす取り組みをしている。法人ホームページ、ブログ、施設広報誌を通じて情報発信している。	全体朝礼の冒頭において「理念：自ら受けたいと思う～」及び、「ビジョン：老いていくことが怖くない未来～」を唱和しています。此処1年職員が半数近く入れ替わるということがあり、浸透はこれからのものの新人でもこやまケア委員会に所属の職員もいて、進捗は顕著です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	「万畑まつり」にて、地域住民との交流や防災訓練の際に町内会の支援での炊き出しを受け交流している。	『万畑まつり』の子ども屋台を飾り付ける『おはながみづくり』は恒例となり、高校生の太鼓部や地元のおよこいチームもイベントがあれば来所くださっていますが、本年は園児の演舞披露や肩たたきなどで子どもと親しむ1日もありました。	台風などのアクシデントが続き1年ほど休止状態の認知症カフェですが、取組意欲は衰えておらず再開の見込みがあるため、今後は年間計画を策定しての実施を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やわかばカフェの開催を通じて、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度開始したビューティタッチセラピーについては地域の意見を取り入れ参考になっている。災害対策についても共有している。	前・町内会長は現在地区の防災会長として継続参加くださり、メンバーが豊富で多いときは13名ほどの集まりになります。感染症や餅の飲み込み等テーマも多様に準備し、併設の居宅介護保険事業所、通所介護事業所の管理者も出席して施設一致協力で取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等行っている。伊東市小規模施設系部会との連携も図っている。	毎回夕方からなのに運営推進会議には地域包括センターからの出席が得られており、市役所高齢者福祉課も年1回は足を運んでくださいます。所長が小規模施設系部会の会長として年4回の会合で課題共有をしつつ研修などを推進、貢献しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を中心に、身体拘束適正化にむけて協議し、勉強を通じて職員の意識、理解に努めている。	本年度の法改正に係るマニュアル・指針を整備のうえ『身体拘束廃止委員会』を設置し、委員会4回、研修会2回、新人教育も無事終了しており、現在3要件の対象となる症状の利用者もいません。職員が半数以上入れ替わったことで、スピーチロックの心配もなくなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて不適切ケア等研修を通じて理解を深めている。併設のデイサービスご利用の際にはご家族との関係性にも配慮し虐待事案が発見されれば早期発見を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前わかばカフェにて成年後見制度について学ぶ機会をもった。現在後見人が居るお客様もあり、制度の活用が行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に高齢の方、認知症の方の生活上、起こりうる可能性のある項目について共有し、不安を共有しながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。	年1回法人の満足度調査を通じて挙げた、館内清掃や床のクロスについての苦言は、外部業者へ依頼する等速やかに改善しています。他にも噛みごたえについての要望があったり、入居時から家族希望でパワーリハビリの機器での個別訓練が続いている利用者もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度、個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画作成にあたってはグループワークで職員の声を反映している。	平成29年度に職員ノートから導入し、その後『気づきノート』として変容して、現在は提案事満載の貴重な情報源へと発展しています。例えば「夜勤の入り方が16時半からで間に合いますか」については、業務の設計を見直し、日勤の退去時間を延長することで解決しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の整備を行い、職員が休息を取りやすい環境作りを行っている。実務評価表、個人目標進捗を確認しやりがいがもてるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議し職員研修参加計画を立てて、研修参加を促している。力量にあった研修案内をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部会議、法人全体会議内で得た情報について水平展開を図り、サービス質向上に生かしている。施設祭りに互いに協力し合い、絆を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人面談にて不安や困り事は聞き取りしている。関わりはじめは、施設職員というより、人として関係性を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りしている。入居日の設定はご家族様と協議し、ご家族様が言いにくいことは施設側が介入し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療体制については、深く相談し訪問診療等通じてご家族様の負担、不安の軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人のできる事を見極め、役割を持ってもらう事で共同生活の認識をもってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の際、利用における留意事項を説明し、ご家族との協力支援の重要性を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスをご利用されていたお客様が入所となりこれまで馴染みの関係だったデイサービスのお友達との関係性が継続できるよう、橋渡し役となっている。	介護タクシーを月1回依頼して買い物などへ自由に行けている人や、「自宅で一緒に過ごす時間を増やしたい」との夫の想いを実現させるべく帰宅支援をおこなった例、趣味の編み物を職員と並んで「ここはこの色がいいね」と話し合いながら続ける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室で過ごす時間を大切にしながらも、体操、レクリエーションの際は連帯感、お客様同士の一体感が生まれるよう席の配慮等行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、法人内連携で対応できることはご案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、ご本人ご家族からの希望は会議体を通じて協議し共有している。	「一人ひとりのアセスメントがすべて頭に入っている？」と疑義が生じるほど、固有情報をベースに会話をもつことができる利用者もいて、フロア全体が活気づく中、職員は「間に入れてもらう」ことで情報把握となる場面も少なくなく、利用者を主役にすることができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様面会時に関わりの中で得た情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理に用いるバイタルチェック表や医療連携等を通じて、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きノートの活用と月に1度のユニット会議で協議し計画作成につなぎ作成している。	100歳となる利用者を家族が心配して訪問診療について協議する場を設けたりと、更新とは直接絡めず「月に1度は家族と話し合おう」との姿勢を以て『サービス担当者会議』が実施され、またユニット会議の意見を吸い上げて次々と、協議テーマが挙がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上の実践状況を踏まえ、ユニット会議で協議し計画書の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの複合型の強みを生かし、体操やレクリエーション等について水平展開し提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴ボランティア来館時には、地域の方と共にふれあい楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、希望者には負担軽減の為、訪問診療への切り替えをおこなった。今後の看取り体制構築となり安心に繋げることができた。	訪問診療をおこなう協力医を2箇所お願いしていて、其々選択してもらい利用者個人としては月2回の診療を受けています。その場には勤務の看護師とリーダーが立ち合って『訪診記録簿』に情報を残し、共有しています。また専門医の通院支援は家族にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へつなぎ適切な受診ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長、管理者、計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月に一度、部署目標に挙げている担当者会議を行い、今後の方針をご家族と立てている。	看取りについては契約時に合意形成はできていますが、サービス担当者会議で意向に変化がないかをあらためて尋ねてしており、概ね年1回は確認できています。訪問看護事業所からとともに、勤務の看護師もあり、協力医の1つは24時間オンコールで、医療連携も整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルを掲示し、施設内でも勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。富士見町ボランティアの支援を頂き、炊き出しを行っている。	総合防災訓練として3事業所全体で年3回実施しています。前・町内会長は現在も富士見地区の防災会長として関わってくださり、訓練時には見守り・点呼の役割を担い、婦人部は炊き出しで豚汁等振舞ってくださいます。また非難誘導マニュアルの見直しも随時おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心にお客様への関わり方について協議し、対応できていると思う。	食事は職員も利用者の中に入り、「甘いね」「これ何?」といった本人のリズムに合わせた会話をもちつつも、本人の飲み込みや状態を気にしつつ、また残していると「もう少し頑張れますか」といった投げかけが新人職員でもできていて、理念の体現が垣間見えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際の嗜好の確認や、入浴時間についてお客様にあわせて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にプランサービス内容を記載し、お客様の目標、ペースを意識し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを中心にお客様に合わせて役割の提供を行っている。	主菜に副菜2品で栄養バランスも良く、味付けも高齢者に合せ薄味ながらもメリハリのある献立として提供されています。誕生日には当日が無理としてもお祝いにケーキを購入したり、ハロウィンにはお化けの形のオムライス、敬老の日は天ぷらと行事食も盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、必要に応じてユニット会議で協議している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室洗面にて実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。	排泄チェック表をつけリズムを掴んで声掛けすることで失敗がなくなったことから、日中のみパットが外れた人が2例あります。夜間にトイレが頻回な人は足元にリスクもあることから、ベッドからドアへの動線を改良して、さらに巡視の間隔も短くしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、乳製品など工夫して薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ時の希望を大切にしている。曜日を決めずお客様の状態に併せて行っている。	ごく普通の家庭にある一般浴の湯船には現在ほぼ全員が一人介助で浸かれています。どうしても難しいとなればシャワーキャリーを使用したり、体調がわるければ清拭に切り替えています。また「寒いから」「かゆいから」との要望があれば回数を増やしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めず、共有スペースにて過ごす時間も大切にしながら、お一人お一人にあわせた就寝支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携、訪看との連携にて特に下剤等の介助手順は慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員による演奏を通じて、童謡唱歌等を歌う機会を作り、気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出企画としてグランイルミ遠足を実施した。	外出や散歩については計画だてていませんが、イルミネーション鑑賞は年次行事として定着していて、併設事業所の車輛も借りて全員で出かける外出イベントとして家族も参加して下さっています。	併設事業所でレクリエーションや行事が多いためか、外出への取組みが薄くなっていますので、今後は個別外出などを増やしていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物等楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に施設よりご家族に連絡し、ご本人との橋渡しとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、壁画にはこだわりをもちおこなっている。季節感を感じて頂くようにしている。	共用空間は他施設の2~3倍で、階段も車いすを4名で抱えて降ろせる広さです。1時間に1回の換気、何十量もまかなえる大型の次亜塩水噴霧器と細目な手洗いで、今期感染症知らずです。所長のさんしんの音色に癒されつつ皆で声を合わせる日もあります。	大変広いため、物品の置き場所が自由になっている感があります。置き場所を決める等の是正があることを期待します。また画鋲も気になるため、中長期でピクチャーレールの予算がとれたらなお良いと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し共有空間、自室との間に集いの場を設けた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が落ち着いて生活できるよう馴染のものを置き、必要に応じてリニューアルしている。	「西日が強いから」との説明でしたが、全室にレースカーテンが取り付けられ、日差し調整ができるようになっていました。また居室担当者が壁に台紙を貼り、本人の素敵な笑顔を一つひとつ掲示していたり、几帳面なのか布団や枕がきちんとたたまれた部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯等お客様ご自身で行う事が出来る方は、職員見守りの中行ってもらく。安全に生活できるよう危険箇所の確認は随時行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば2階ユニット		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=truet&jiyosyoCd=2290400080-00&PrefCd=22&VersioCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスとの連携を通じて、お客様、職員の行き来が頻繁あり、特に体操、機能訓練の取り組みはお客様の生活の質を高める事ができている。美容師資格を持った介護職員がビューティセラピー資格を取得しタッチケアを通じた認知症ケアが行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と海に囲まれた場所に事業所はあります。家族希望でパワーリハビリの機器を使った個別訓練が続く利用者もいる程で、本人本位と家族満足に力を注いできましたが、近年のトピックスとしてはタッチケアの充実が一番に挙げられます。2018年ビックサイトで催された『住まい×介護×医療展』における『介護新ビジネス展』でも大々的に紹介されたビューティセラピー資格を美容師資格を持った介護職員が取得し、タッチケアを通じた認知症ケアがおこなわれています。「(あなたも)やってもらったら」「また来てね」「はい、〇ページを開けてください」と、利用者の発言にはどれも弾みがあって、いつまでも見つめていたい光景が広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて季節ごとの行事や、地域祭りを通じて交流し、地域に根ざす取り組みをしている。法人ホームページ、ブログ、施設広報誌を通じて情報発信している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「万畑まつり」にて、地域住民との交流や防災訓練の際に町内会の支援での炊き出しを受け交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やわかばカフェの開催を通じて、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度開始したビューティタッチセラピーについては地域の意見を取り入れ参考にしている。災害対策についても共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等行っている。伊東市小規模施設系部会との連携も図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を中心に、身体拘束適正化にむけて協議し、勉強を通じて職員の意識、理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて不適切ケア等研修を通じて理解を深めている。併設のデイサービスご利用の際にはご家族との関係性にも配慮し虐待事案が発見されれば早期発見を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前わかばカフェにて成年後見制度について学ぶ機会をもった。現在後見人が居るお客様もあり、制度の活用が行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に高齢の方、認知症の方の生活上、起こりうる可能性のある項目について共有し、不安を共有しながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度、個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画作成にあたってはグループワークで職員の声を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の整備を行い、職員が休息を取りやすい環境作りを行っている。実務評価表、個人目標進捗を確認しやりがいがもてるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議し職員研修参加計画を立てて、研修参加を促している。力量にあった研修案内をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部会議、法人全体会議内で得た情報について水平展開を図り、サービス質向上に生かしている。施設祭りに互いに協力し合い、絆を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人面談にて不安や困り事は聞き取りしている。関わりはじめは、施設職員というより、人として関係性を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りしている。入居日の設定はご家族様と協議し、ご家族様が言いにくいことは施設側が介入し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療体制については、深く相談し訪問診療等通じてご家族様の負担、不安の軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人のできる事を見極め、役割を持ってもらう事で共同生活の認識をもってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約の際、利用における留意事項を説明し、ご家族との協力支援の重要性を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスをご利用されていたお客様が入所となりこれまで馴染みの関係だったデイサービスのお友達との関係性が継続できるよう、橋渡し役となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室で過ごす時間を大切にしながらも、体操、レクリエーションの際は連帯感、お客様同士の一体感が生まれるよう席の配慮等行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、法人内連携で対応できることはご案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、ご本人ご家族からの希望は会議体を通じて協議し共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様面会時に関わりの中で得た情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理に用いるバイタルチェック表や医療連携等を通じて、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きノートの活用と月に1度のユニット会議で協議し計画作成につなぎ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上の実践状況を踏まえ、ユニット会議で協議し計画書の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの複合型の強みを生かし、体操やレクリエーション等について水平展開し提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴ボランティア来館時には、地域の方と共にふれあい楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、希望者には負担軽減の為、訪問診療への切り替えをおこなった。今後の看取り体制構築となり安心に繋げることができた。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へつなぎ適切な受診ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長、管理者、計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月に一度、部署目標に挙げている担当者会議を行い、今後の方針をご家族と立てている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルを掲示し、施設内でも勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。富士見町ボランティアの支援を頂き、炊き出しを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心にお客様への関わり方について協議し、対応できていると思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際の嗜好の確認や、入浴時間についてお客様にあわせて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にプランサービス内容を記載し、お客様の目標、ペースを意識し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを中心にお客様に合わせて役割の提供を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、必要に応じてユニット会議で協議している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室洗面にて実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、乳製品など工夫して薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ時の希望を大切にしている。曜日で決めずお客様の状態に併せて行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を決めず、共有スペースにて過ごす時間も大切にしながら、お一人お一人にあわせた就寝支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携、訪看との連携にて特に下剤等の介助手順は慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員による演奏を通じて、童謡唱歌等を歌う機会を作り、気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出企画としてグランイルミ遠足を実施した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物等楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に施設よりご家族に連絡し、ご本人との橋渡しとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、壁画にはこだわりをもちおこなっている。季節感を感じて頂くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し共有空間、自室との間に集いの場を設けた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が落ち着いて生活できるよう馴染のものを置き、必要に応じてリニューアルしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯等お客様ご自身で行う事が出来る方は、職員見守りの中行っ頂く。安全に生活できるよう危険箇所の確認は随時行っている。		